

アルケイアー記録・情報・歴史―
第一四号 二〇一九年十一月 三五―四七頁
南山アーカイブズ

上智大学における資料保存と研究・教育での活用

ベティーナ・グラムリヒ＝オカ

上智大学国際教養学部

Utilizing the Sophia University Archives for Research and Education

Faculty of Liberal Arts, Sophia University

Bettina Gramlich-Oka

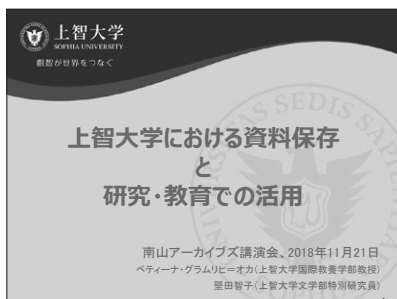
Archeia: Documents, Information and History
No.14 November, 2019 pp.35-47
Nanzan Archives

- 一 資料収集と保存
- 二 研究について
- 三 データベースを教育に役立てる

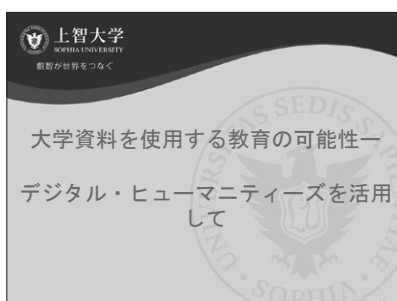
上智大学における資料保存と研究・教育での活用

ベティーナ・グラムリヒ＝オカ

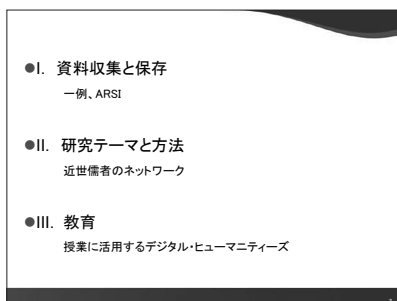
ただいま、ご紹介にあずかりました上智大学国際教養学部のパティエナ・グラムリヒ＝オカでございます。本日は南山アーカイブ講演会、2018年11月21日。



スライド1



スライド2



スライド3

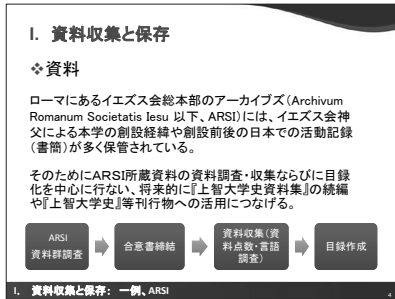
は南山アーカイブズの講演会にお招きいただき光栄です。このような貴重な機会を設けていただき永井先生並びに村上さんと関係者の皆様には心から感謝申

し上げます。よろしくお願いいたします。（スライド1参照）

本日ご紹介するのは二つのパートに分かれております。最初のパートは、現在の上智大学のアーカイブズにおける活動、その後、堅田さんがその続きをもう少し具体的に紹介する予定です。（スライド2参照）

私のテーマは、ご覧のような大学資料がどのように教育の場で使えるかということについての紹介です。三つのテーマに分けます。（スライド3参照）最初は資料収集と保存。そしてアーカイブズの活躍について紹介をし、最後に教育の場においてアーカイブズと自分の研究がどのようにつながっているかを、報告します。

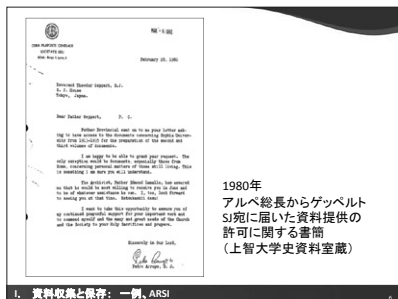
一 資料収集と保存 （スライド4参照）



スライド4

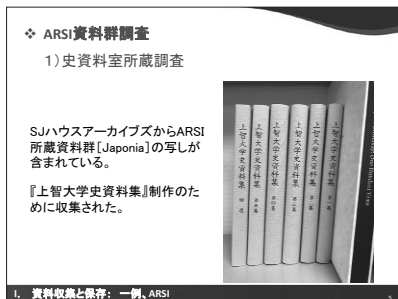
最初は、第一のテーマ、資料収集と保存についてなのですが、今ローマにあるイエズス会総本部のアーカイブズ「ARSI」というのは、イエズス会神父による本学の創設経緯や創設前後の日本での活躍記録、書簡が多く保管されています。そのため「ARSI所蔵資料の資料調査、収集ならびに目録化を中心に行い、将来的に『上智大学史資料集』の続編や、『上智大学史』等刊行物への活用につなげる予定です。それができるまでに次のステップが必要でした。

去年の暮れからの活動なのですが、最初はARSI、ローマのアーカイブズにある資料群の調査、外部のアーカイブズと大学のアーカイブズの契約についてのどのようなかを決めることでした。その後資料収集と目録作成についての仕事



1. 資料収集と保存：一例、ARSI

スライド6



1. 資料収集と保存：一例、ARSI

スライド5

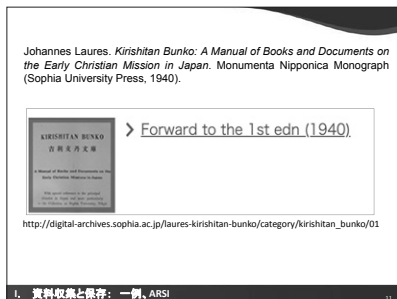
行われました。(スライド5参照)

まず ARSJ の資料群の調査を始めました。上智大学の神父さんの住居を SJ ハウスといいます、ここにもアーカイブズがあります。そのアーカイブズを現在の担当者の神父さんが、三年前から私と一緒に大学関係の資料のみを大学の史資料室に移管を始めました。その中にはローマの ARSJ 所蔵資料群であるヤポニア(Japonia) の写しも入っていたため、まず今までにどのぐらいの資料が ARSJ から上智大学に移管されたか確認を行いました。

その中から一つの手紙が出てきましたので紹介します。ペドロ・アルペイエズス会総長から上智大学のテオドール・ゲッペルト神父への手紙であり、一九一三年から一九三五年の上智大学に關係する資料提供について記されています。(スライド6参照)

ローマに存在した一九一三年から一九三五年までの大学関係の資料のコピーが全部上智大学にあるはずだと思ったのですが、第二段のステップの教職員インベリションプロジェクトとして再調査をしたところ結果的には全部ではなくて一部だけを所蔵していることがわかりました。抜けている番号の資料のコピーを今年の春に ARSJ にお願うことにしました。(スライド7参照)

その結果 ARSJ から今までなかったデータを収集することができました。三〇〇〇点以上の資料が電子データでローマから上智大学に送られてきました。



スライド11

と思います。一つ目は一九三四年の手紙で、上智大学の神父さんからアメリカのイエズス会の大学の学長へ留学を頼む手紙です。この手紙が見つかったことでいつから留学が始まったとか、上智大学が卒業生をどうのようにして postgraduate として海外で受け入れる大学を見つけたのが、少し判明しました。この手紙は学長に学部卒業生を一年間の奨学金付きで勉強できるようにお願いした手紙です。ここから交換留学が始まったと思われます。(スライド9参照)

もう一つ紹介したい例は本部に送る手紙でドイツ語です。ラウレス神父さんはキリシタン文庫の創立者の神父さんです。一九三八年一月に彼が本部に送った手紙なのですが、将来大きな成功を収めることになるキリシタン文庫の目録を出版するための助成金のお願いでした。その時代日本はアジア地域ですでに戦争を始めていたので、他の国の教会に頼めず、ローマにお願いしたのです。(スライド10参照)ローマが助成金を出したかどうかは定かではありませんが『Kirishitan Bunko: A Manual of Books and Documents on the Early Christian Mission in Japan』はその二年後に出版されました。一九四〇年。あまりにも評判が良くて、再版は四回行っており、戦争中三回、戦後にもう一度再版になりました。現在はキリシタン文庫のデータベースに行けば、その目録をeBookとしては読むことができます。このようなやり取りの手紙が多く資料群の中に入っています。おかげで研究者にとっては政治的な問題やキリシタン時代のことなどを、大学においても研究できることになりました。(スライド11参照)

その後全部の資料を使い、目録を制作しました。SJハウスの神父さんたちの

❖ 4) 目録作成

書簡という性質に加え、電子資料であることから、史資料室が扱っている通常の資料目録に☆印の3項目を追加し、目録を作成した。作成にはドイツ語と英語による書簡の解読が可能な大学院生のアルバイトが担当し、3,399点全ての表題目録の入力が完成した。

- ①Jpeg No.(画像データ番号)☆
- ②資料番号
- ③原典
- ④年月日
- ⑤手紙を書いた場所☆
- ⑥差出人
- ⑦受取人
- ⑧形態
- ⑨数量(書簡の画像点数)
- ⑩手紙の言語☆
- ⑪概要/備考

I. 資料収集と保存: 一例, ARSI

スライド12

❖ 4) 目録作成

I. 資料収集と保存: 一例, ARSI

スライド13

❖ ARSI 資料群調査

5) 今後の課題と進み方

イエズス会教育推進センター(研究部門)の業務として継続

- ・ARSIへの現地調査を実施
- ・書簡1点ずつ内容を確認し、詳細目録を作成する。
- ・中高を含めた上智大学院法人としての資料収集を行う。

I. 資料収集と保存: 一例, ARSI

スライド14

アーカイブズを基にして、いろいろな言語で検索できるようにしています。(スライド12・13参照)

進センターの業務として継続することになりました。ARSIへは現地調査を二月中に実施し、先生三人で現地に行く予定です。(スライド14参照)

二 研究について (スライド15参照)

私の研究の中心は江戸時代の社会・文化・思想・医学・ジェンダーと経済思想です。数年前からは江戸時代のネットワーク分析にも興味を持っています。以前は医学誌や思想史など本当にテキストを中心とする研究をしていたのですが、江戸時代は記録や手紙がとても多く、思想家、学者は手紙などによってつながりネットワークが構成さ

❖ 日本の人名データベースの目的

- 集団履歴調査（プロソポグラフィ）やネットワーク分析（Social Network Analysis）の手法を検討
- 近世日本の人物についての伝記や、関係を取り扱うデータベースを構築
- 情報検索と可視化用のウェブアプリケーションを作成中



II. 研究テーマと方法

スライド16

II. ネットワーク研究と分析： 日本の人名データベース

- 本研究プロジェクトでは、長期的には同様の研究方法を用いて、近世日本以外にも異なる時代や地域を対象とした研究を進めていく予定である。
- 本プロジェクトの一部をなす「近世日本の知的ネットワークの研究」では、江戸後期の儒者頼春水のグループを含め、さまざまな集団に焦点を当てるとともに、ネットワークにかかわった人々の書きものを幅広く取り上げ、総合的な分析を加えていく。
=>近世儒者のネットワーク

II. 研究テーマと方法

スライド15

れていました。今の時代の学生たちの間ではSNSというネットワークが存在します。そのネットワークが社会の構成要素としての「集団」に着目し、その実態をとらえる研究するプロジェクトが始まったのです。通常人名辞典を開くと一人の人物について生年月日、誰々のところで勉強したとか、たまに友だち関係も書いてあります。しかし私の興味は「いつからいつまで勉強していた」とか「いつからいつまで友だちだった」という部分なのです。私たち自身も友だちや知り合いはいますが、そこには深い関係と浅い関係があり、それは時間と場所も大切なのです。歴史家としては時空を大切にしないといけないと考えています。（スライド16 参照）

特に prosopography（集団履歴調査）に私は力をいれており単なる個人ではなく、家族、仕事、あるいは趣味といったつながりのなかでの個人を考察していくことに焦点を置いています。ある人物が行動する時代的・場所的背景、またその人物が社会的にはたす役割を重視しているのです。

具体的な研究ですが、私は近世日本の知的ネットワークの研究で、頼春水にとっても興味を持っています。頼春水はあまり知られていないかもしれませんが、頼山陽は、聞いたことがあると思います。教科書には『日本外史』を書いた人物だと紹介されていて、春水は漢詩とか漢学で有名になった人物のお父さんです。（スライド17 参照）

❖ 日本の人名データベースの目的(続き)

- 第一歩は、儒学者頼春水を取り巻くネットワークに着目
- 頼春水の日記や書簡など、史料上で確認できる人名のデータベースを作成
- データ管理システムはPostgreSQL v9

II. 研究テーマと方法

17

スライド17

頼春水は学者で、彼は三五年間日記を書いていましたが、面白い情報は実は頼山陽のお母さん、しず、が書いた五五年間にわたる日記のほうです。頼家は日記以外の記録も多く、特に手紙も沢山残っており、資料には本当に困らないわけです。

その頼春水は安芸の国（広島）の竹原の紺屋の長男として生まれ、最初は百姓の身分でした。七歳下の弟は頼春風。一〇歳下の弟は頼杏坪。江戸後期では有名な三人兄弟でした。春水は二〇歳のときに大阪に行かないと自分の勉強が続けることができないという覚悟で、広島から大阪に移ってのちに塾を開きました。

塾の評判が良く一七八一年に広島藩主から「藩校で先生にならないか」と招聘されました。春水は迷いました。自分の塾だと身分は百姓のままですが、収入が多く割と自由な生活ができていました。藩校に入ると藩士になれますが手紙を見ると収入は落ちてしまします。藩主のために働く収入は減るうえ自由も失います。彼の悩みが日記から本当に良く分かります。例えば温泉に行きたい場合でも、出張に行きたい場合も、申請しなければいけません。戻ったときは報告書も出さなければなりません。決して自由ではないのですが、春水は結局藩士になりました。



スライド18

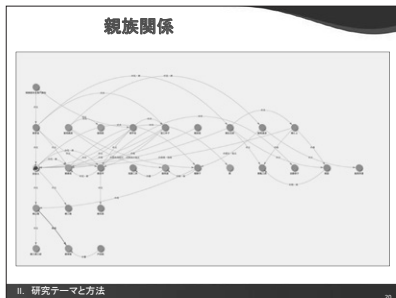
三 データベースを教育に役立てる

では私がデータベースをどのように教育に役立てたいのかを少しお話ししたいと思います。私はソーシャル・ネットワーク・アナリシス(SNA)の手法を使い、インターネット上から誰でもアクセスができるデータベースを公開しています。手紙などを通してネットワーク分析するときが一番大切なのは、人物のデータだけではなくて「イベント」を入れることです。誰がどこで誰に会ったのか。あるいは誰がいつ、誰に手紙を出したのか。それらを利用してネットワーク分析をおこないます。そういう情報がないと個々の人物情報はありますが、つながりはないのです。このデータベースはいろいろなカテゴリを考えて構築されています。例えば今検索しているのは、手紙、書

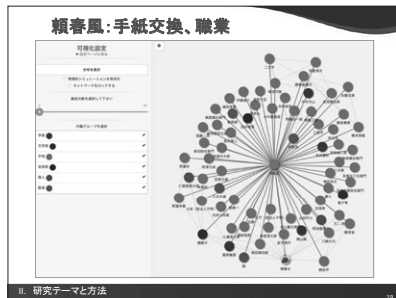
簡の場合で真ん中の左に集中している人物が頼春水で、私のメインの人物です。これを見るといろいろな人とつながっています。いろいろなフィルターもかけることもでき例えば性別、職業あるいは身分とか親戚とかでフィルターをかけて見ることが出来ます。

もう一つの例は、頼春水の弟の春風の手紙交換です。春風は真ん中において、学者、文学者など付属のグループを選択して表示することができます。（スライド18 参照）

今お見せしているデータベースは親族関係です。普通の家系図は世代ごとに下につながりますが、多くの家族は養子もいるし、奥さんも複数いるので複雑なです。普通の二次元では表現しにくいものでも、このようなデータベース



スライド20



スライド19

III. 教育

授業に活用するデジタル・ヒューマニティーズ
プロセス：
情報の入手・情報の分析・情報の表現・情報
の公開

⇒デジタル・ヒストリー

III. 教育

スライド22

❖日本の人名データベース

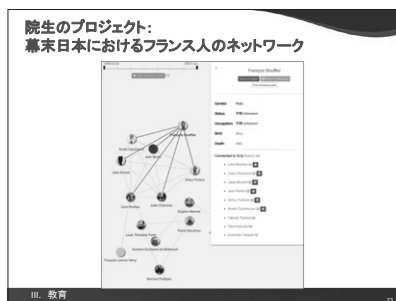
- 近世日本の政治が具体的にどう動いていたのかを理解するために、ネットワーク的アプローチは有用
- ウェブアプリケーション及びネットワーク可視化ツールの運用によって、この目標に近づく
- ネットワーク可視化用のコンポーネント以外にも、地理情報システムを取り入れる
- 近世日本以外にも異なる時代や地域を対象とした研究を進めていく
- 研究だけではなく、教育にも役立つ

II. 研究テーマと方法

スライド21



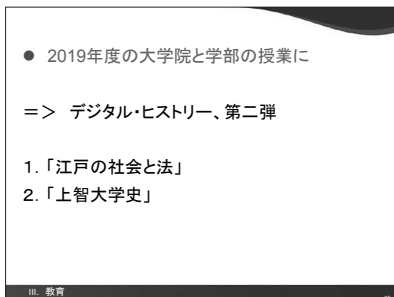
スライド24



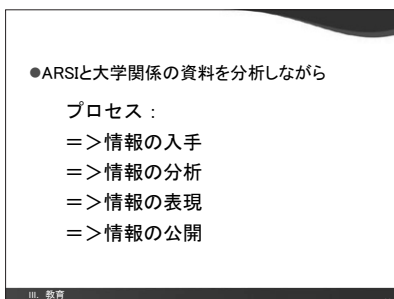
スライド23

であれば表現可能
です。またこの
図の一つのポ
イントに行くと
更にいろいろな
情報が出てきま
す。時間があつ
たら、皆さんも
ぜひご覧ください
い。

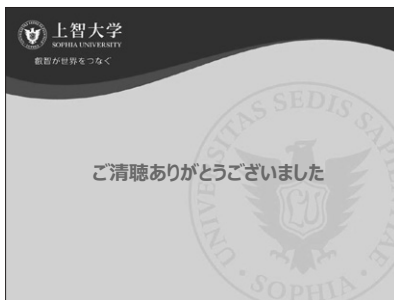
データベース
は日本語と英語
の両方があるの
ですが、人物は
ほとんど日本人
です。まだ情報
を入れ続けて
おり、現在は



スライド25



スライド26



スライド27

五〇〇〇人ぐ
らの人物がデー
タベースに入
っており、イ
ベントとしては
六〇〇〇点ぐら
いあります。イ
ベントは会議、
お見舞い、秘密
の内談、あるい

は手紙交換というように分けてあります。(スライド19ー21参照)
この研究は教育の場でも役立てています。例えば今年の春学期には大学院生に対して幕末の授業を開いたのです
が、院生たちには自分のテーマを考えてデータベースを使いながら、自らも入力させました。つまりそれがデジタル
ヒストリーになるのです。(スライド22ー25参照)

将来的には上智大学史を是非やらせたいと考えています。初めにお話ししたローマから持ってきた資料を使って
ネットワーク分析をしてみるのです。できればそれらの分析を来年の授業で行う予定です。(スライド26参照)

私の話はここまでです。本当にご清聴ありがとうございました。(スライド27参照)

次は堅田さんからつづきの話をしてもらいます。もう少し細かい話になります。どうもありがとうございました。